



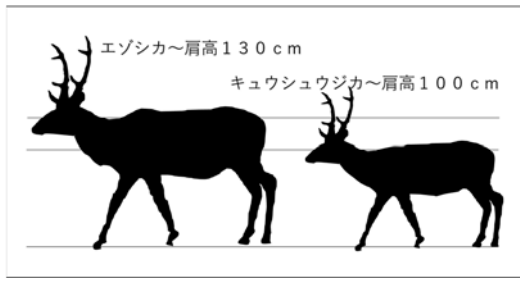
エゾシカ捕獲対策の推進

保全課

北海道森林管理局ではエゾシカによる農林業被害の軽減に向け、狩猟者への対応と、自ら又は自治体との連携による捕獲事業に取り組んでいます。

【狩猟について】

日本国内に広く生息するニホンシカ。7つの地域亜種が存在し、その一つであるエゾシカ（オスの体重約130～150kg）は、同じ亜種である



【図1】大きさの比較

キュウシュウジカ（オスの体重約60～100kg）と比べて、かなりの大きさです。（図1）

このことから、狩猟の対象としても人気が高く、道外からも多くの狩猟者が訪れます。

一方、道内の可猟区は、一部猟区を除いて狩猟に関する管理を行わない、いわゆる「乱場」となっており、猟銃による事故も後を絶ちません。

国有林には、各種事業を行うため、森林レクリエーションを楽しむためなど、様々な目的で人が訪れます。

猟銃による事故は、被害者はもちろんですが、加害者にとっても一生を左右する重大な事態となりますので、これを防ぐため、各種安全対策の徹底を図っています。

なお、北海道は面積が広大なため、入林手続き

を北海道森林管理局に集約し、郵送・FAXのほかオンラインでも可能とするなど、狩猟者の負担軽減にも努めています。

【エゾシカはどこにいるのか】

比較的狭い範囲で活動する関東以西のニホンシカに比べて、エゾシカ個体群の多くは、森林と農地の間を季節で行き来しており、時には100kmも移動することが知られています。

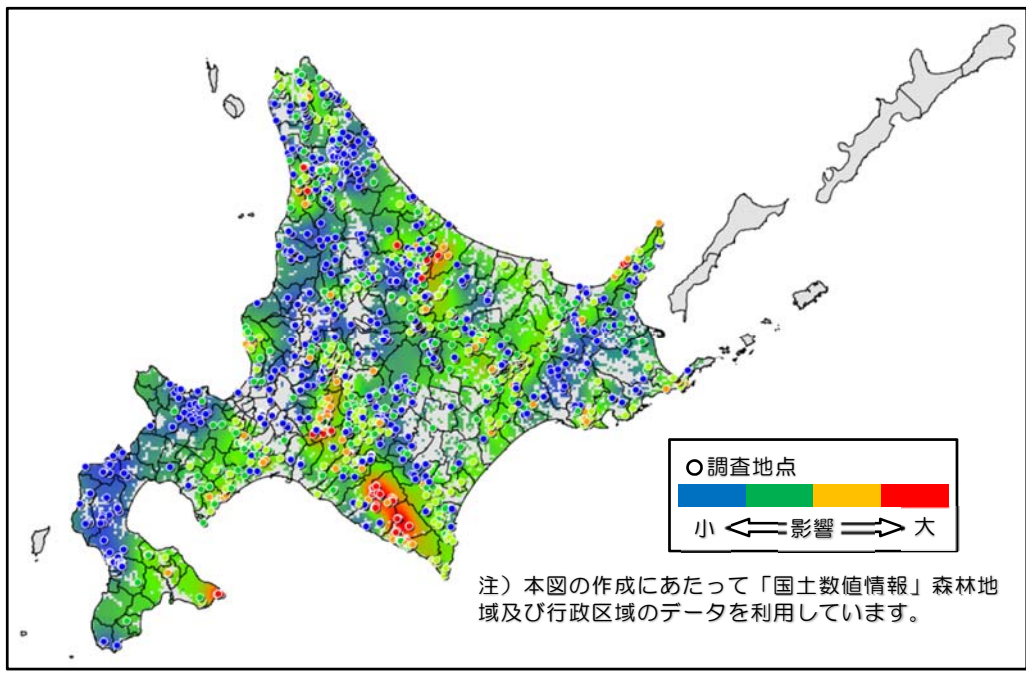


【写真1】2頭の雄シカ

また、基本的にオスとメスは別々の群れで行動

しますが、夏には草地や農地周辺で牧草などの農

作物を採食し、秋から冬にかけては、オスが十数



【図2】天然林にエゾシカが与える影響評価（2019年簡易チェックシート調査）
（北海道森林管理局・北海道・北海道立総合研究機構）

頭のメスを引き連れ、針葉樹などがある森林内に集まります。

冬の森林内ではササや木の皮を採食し、飢えをしのぎ春を待つのですが、このような場所を「越冬地」といい、狩猟者の手が届かない奥地の国有林に集まるものが多く、ここで如何に効率的に捕獲を行うかがポイントと考えています。

【エゾシカによる森林被害の実態把握】

エゾシカは、ササ、樹木の枝や皮、森林内に自然に発生した若木も採食してしましますが、その影響は見えづらく、じわじわと蝕むように森林被害が進んでいきます。

そこで、歳月による変化がわかるよう全道各地に「定点」を設け調査を行っています。

また、職員が森林に向いた際に、その場所の状況を記録し、エゾシカ被害がどのように広がっ

ているのかなど実態把握に努めています。(図2)

【森林づくりとしての捕獲事業】

二ホンシカによる被害を全国的に見ると、特に平成に入った頃から顕著になり、地域によっては表土が露出し、土砂が流れ出すなど、深刻な状況となっています。



【写真2】捕獲事業のため設置した大型囲いワナ内の様子

北海道においても、生息密度が高い地域では同様の状況も見られており、森林整備事業における森林づくりの一環としてエゾシカ捕獲事業に取り組んでいます。

その手法は、囲いワナやくくりワナ、林道を封

鎖して行うモバイルカリングなど、地域の状況に応じ、また、場合によっては、それらを組み合わせるなど工夫しながら取り組んでいます。(写真2)

【職員による捕獲の実施】

狩猟者の高齢化など、後継者不足と言われている中、国有林の管理を行う者として、職員自ら「くくりワナ」を使用した捕獲に取り組んでいます。

昨年度は、局職員が試行的に陸別町と恵庭市で実施し、今年度は、稚内市と苫小牧市での実施を計画しています。

実際にワナを仕掛けていく中で、どういう箇所がワナを仕掛けるのが効果的か、冬期間のワナ本体の凍結をどう防止するかなど、関係者の方々からアドバイスをいただきながら、経験を積み重ねているところです。(写真3・4)



【写真4】くくりワナによる捕獲



【写真3】くくりワナ

【自治体等との連携による捕獲】

エゾシカの越冬場所は判っているものの、積雪等で駆除者が現地に行けないというケースも多く、そのような場合、自治体との協定締結により、森林管理署が林道除雪とエゾシカによる誘引を、自治体が行っています。(写真5)

また、自治体単独の捕獲事業実施にあたり、積極的に国有林野を捕獲の場として利用していただいています。



【写真5】林道除雪の様子

【おわりに】

北海道森林管理局では今年度の重点取組事項として「多様な森林づくり」を掲げています。

森林内に発生する若木の増加は、適切な森林の管理経営を進めていく上で大きな支障となります。

冬期に国有林に集まってくるエゾシカを如何に効率的に捕獲するかが、地域の農業だけでなく林業にとっても重要となっています。

目標とする多様な森林づくりのため、効果が上がるよう、地道に取り組んでいく考えです。